KANSAI HARMONICA FEDERATION

会報

第125、126合併号

特集

世界ハーモニカ・フェスティバル

’95 ジャパン IN KANSAI

第1部 世界ハーモニカ フェスティバル ’95 IN 横浜

† 京都ハーモニカ クァルテットに栄冠・・・・・・・・・・・・・・・・1

† 興奮の世界ハーモニカ フェスティバル－入江章次－・・・・・・・・2

† 木谷さん 桂 三枝の「ナイト IN ナイト」に出演・・・・・・6

第2部 －－－IN KANSAI－－－

† ハーモニカ渡来100周年記念コンサートを終えて－仲村 眞－・10

† 1008名の入場者が感激しました－吉村 則次－・・・・・・・・12

† 日本のハーモニカ友達の皆様へ－ピート ピーダスン－・・・・・16

† 念願の夢－吉森 正隆－・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

† 最高に素晴らしいコンサート－徳永 延生－・・・・・・・・・・・20

† アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

† アルバム in KANSAI・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

第１部　世界ハーモニカ・フェスティバル　’９５ジャパン

横浜でのフェスティバルはまことに素晴らしく、興奮のうちに終了した。
今回のフェスティバルでは関西勢も大活躍したが、その様子をまとめた。また、感想を入江章次氏にお願いしたので掲載する。

京都ハーモニカ・クァルテット　に栄冠

世界ハーモニカ・フェスティバル’９５ジャパン
ワールドハーモニカ・チャンピオンシップス

平成７年１０月１０日から１３日までパシフィコ横浜会議センターで開催された世界ハーモニカ・フェスティバル’９５ジャパンの催し物の一つに演奏者が日頃鍛えた腕を競う恒例の「ワールドハーモニカ・チャンピオンシップス」がある。今回も関西から多数参加したが、京都ハーモニカ・クァルテットが「４人以上６人以下のグループ」で見事チャンピオンに輝いた。また、高槻市の木谷悦子さんは「クロマチックソロ・ジャズ、ポピュラーシニア」の部で堂々３位に入賞した。また関西ハーモニカ・ポップスは「７人以上のグループ」で５位に入賞した。詳細を以下に示す。

グループ（４人以上６人以下）の部
　　１位　京都ハーモニカ・クァルテット

　　和谷　篤　　新井　尚子　　田中　幹子　　北尾　秀夫
　　曲名「軽騎兵序曲」

クロマチック　ソロ　ジャズ・ポピュラー　シニアの部
　　３位　木谷　悦子
　　曲名「メドレー（グリスビーのブルース、水鳥のサンバ）」

グループ（７人以上）
　　５位　関西ハーモニカ・ポップス

　　白鳥　達夫　　吉森　正隆　　田代　敏胤　　村上　浩一
　　青木　聰　　織田　太郎　　仲村　眞　　入江　章次
　　山村　信彦　　後藤　貞男　　千田　清忠　　林　ヨシ子
　　天野　恭子　　大石　喜一郎　加久田　吉夫　坂井　信子
　　酒井　涼爾　　小島　肇　　松川　義明　　植田　理子
　　曲名「タンゴメドレー　たそがれ　夜そして夜明け」

興奮の世界ハーモニカ・フェスティバル

入　江　章　次

１０月１０日、桜木町の駅からフェスティバル会場の、パシフィコ横浜に向かっていると、早速懐かしい方と出会い。積もる話をしているといやが上えにも興奮の度が高まっていった。一つでも多く見よう（聴こう）と、会場をのぞいたり渡り歩いていると、何人ものハモ仲間に会い、憧れのプレーヤーを目の当たりに見ているうちに、いっそう顔もほころび、それでなくとも興奮しやすい私は益々興奮していった。外国のプレーヤー達も皆楽しそうであった。グループの中心にいるのは、何時もピート・ピーダスンだった。

ピートの演奏は、９日に既に大阪で聴いている。ウォームでホットな演奏に、僕のハートはその時から興奮状態だったのだ。是非とも俺もこんなふうに演奏してみたいと思ったたのは、私だけではないだろう。彼のハーモニカは、ジャズファン、音楽ファンをも満足させてくれるものだった。演奏中でも気軽に拍手をし、声も出る雰囲気である。メガネ越しの眼差し、真っ白なヒゲ、真っ赤な蝶ネクタイもあわせて、いつまでも忘れられない。伴奏のピアノもベースも非常に優れていた。特にベースは前を向いているので、あれだけ楽しい雰囲気で弾いてくれたらピートとの息もぴったりで、最高だった（彼のヒゲもよかった）。服部良一がマイナー調の曲を作るのはやーめたと言って、メジャー調の曲を作る様になったのだが、マイナーの曲でも私たちは、演奏会ではピートの様に、もっと楽しくやりたいものだと痛感している。ピートは色紙に「ベストを尽くすことが全てだ」とサインしてくれた、片仮名で「ピート」（半濁点が抜けているところがいい）とも書いてくれた。早速オーディオルームに掛けた。横浜のガラコンサートや、ＮＨＫの放送では時間が限られていて残念だったが、日本中の人にもっとたくさん聴かせて欲しかった。

みんなの街のコンサートでは、大変バラエティーに富んだアンサンブルを聴くことができた。私達がやっていること、やりたいことをやっていた。体をくっつけ合って２列に並んでも並びきれない程の大世帯のグループもあった。皆さんが何時もどんなふうに寄り集まって練習しているのかなあと、我が身に振り返って想像したりもした。ハーモニカ博物館では百聞は一見にしかず、先人の知恵と情熱が感じられた。私もいろんなことをやってみたが、今は奇抜で面白いものが少なくなってきた。もっと遊び心が欲しい。

さて、お目当てのガラコンサートだが、まだ２時間前だとゆうのに早や２列目が並んでいて、遅れをとってしまった。でもブルースハープだからあわてて前に座る必要もなかったのだ。ガンガン鳴っていて何を言って（歌って）いるのか分からないし、耳は飽和状態だし席を少し後ろに移った。森田幸一になってやっと音楽だと感じられるようになった。お得意のジョージアオンマイマインド、ミケランジェロ等、たっぷりと聴かせてくれた（時間的には短かかったが）。リーオスカーの心の叫びのような演奏、ビリーブランチのリズム感、１０ホールをくわえたことのない方も、一度加えてみたいと思った方が多いのではないだろうか。２日目のクラシックのガラコンサートは、遅れをとらずに、１番に並んだ。チェンバーハンのような本格的なクラシックもやってみたいと思う。シグムンドグローブンは、北欧的な重厚ななかにも、フランス的な独特の音色をもっている。アンドレの、トランペットに通じるような感じがした。彼の先生トミーライリーに比べて個性的である。彼の演奏は正に、シグムンドの世界である。和谷泰扶は、ホラスタッカート他の難曲をいかに吹きこなすか、興味深々であった。誠に見事な演奏に感服する他なかった。

ハーモニカに限らず、プロは何気ない顔をして演奏していても、決めるところは相当気を入れてやっている。ホラスタッカート、は清水光明さんが、早くから吹いておられた。ディニックが没後５０年過つていなかったので、楽譜が手に入らなかったが、やっと入手出来るようになった。子犬のワルツはトミーライリーの流れるような名演もあり、やってみたい曲の最右翼だが、これらの名演の前に、しりごみしてしまう。

ラリーアドラー（キングオブハーモニカ）は、生で聴きたい一人であった。ポールホワイトマン、ジョージガーシュイン等とは１６才で出会っており、特にガーシュインとは、シモーヌシモン（フランス人女性）を追っかけた、恋敵の仲だとも言っている。その彼のま近で、ピアノを弾きながらの悠々とした演奏ぶりを見ていると、彼の世界に引き込まれてしまう。ガーシュインのピアノ演奏が、ピアノロールか何かで残されていたのか、自動演奏するピアノとのラプソディーインブルーの共演は格別のものだった。ピアノのソロ部分では華麗に演奏する鍵盤をしみじみとした様子で眺めていた。きっとそこにガーシュインの姿を思い浮べていたに違いない。目頭が熱くなった。彼にサインをもらったときも、大きく書いてくれと言ったのに、黙って小さく書いてくれた。フェステバルの最後を飾る、表彰式後の模範演奏会場にも、彼は飄々と一人で表われてちょっと聴いて出ていった。

３日目のジャズのガラコンサートは、早目に並びに行ったのだが、遅れをとった。でも幸い最前列の真ん中に座れた。アドラートリオのリズム感と味わいには、度胆をぬかされた。あのクロマチックの音色は正にイスラエルの音だと思った。弦はイスラエルと言われるが、あのハーモニカの音色は、ミッシャマイスキーや、イヴリギトリスに通じるものがあると思った。マイスキーは当代随一のチェリストだし、ギトリスは多分チャップリンの映画のバックでヴァイオリンを弾いていたはずだ。あのチャップリンのヴァイオリンの音がイスラエルの音だ。きっとイスラエルの血があの音色を出させているのだろう。ギトリスは乗っているときはアンコールも弾きまくる。練木繁夫がピアノ伴奏したＣＤもすばらしいが、岩崎淑（皇后陛下のピアノの先生）がピアノ伴奏したＣＤは演奏技術は素晴らしいのに、ギトリスがまるで乗っていないのだ。アドラートリオはこの日は乗っていたのか、それとも彼等には乗らないときなんかないのかもしれない。あのバスはエレキ細工がしてあった。ｄｂｘ社のサブハーモニックシンセサイザーの様なものを使用し、源音とは全く違う音になっていた。バスハーモニカ独特の音はみじんも感じられなかった。

我が関西が誇る徳永延生の演奏を初めて聴いた方は、アドラートリオ以上に度胆を抜かされていた。　あの独特の音色、叫んでいるようで、反面ベルベットの様な柔らかい音色だ。それに誰も真似することの出来ないハイテクニック。演奏が終って休憩のとき、みんな感嘆の声をあげていた。演奏会を半分聴いて、もう「今日の演奏会の５千円は高くない、ハーモニカであんなことが出来るのか！」「いやあ！あれは頭が良くないと出来ないよな」等と、演奏の話題でもちきりだった。早速ＮＨＫ大阪に電話して、たっぷりと時間をとって放送するようプレッシャーをかけ、放送日を調べてもらった時は１１月３０日、２時間放送するとのことだったが、時間が短縮されてしまったので、またＮＨＫに文句を言っているところだ。俺も文句を言ってやろうと思われる方は、　06-941-0431 ＮＨＫ視聴者センターへどうぞ。あの素晴らしい演奏を、日本中の方に全曲聴かせて欲しいと思う。ハーモニカは種類も多く、演奏法も多様で、ハーモニカに王道はないと思っていのたが、このような演奏が、ハーモニカの王道なのではないだろうか（クラシックは別として）。

コンテストでは、複音ハーモニカの課題曲の部が聴きごたえがあった。同じ曲を演奏するのだから面白くないようなものの、逆に同じ曲だから微妙な違いが大変面白かった。特に日本人と外国人の表現力の違いが著しかった。私には外国人のほうが音楽的で歌っているように感じられた。日本人は大半が型で押した様に、同じような演奏をしていた。もっと歌って歌ってといいたくなった。拍手をしてはいけないのだが、よい演奏には拍手を送りたくなって、良かったよと、笑顔で音のしない様に拍手を送ってあげると、相手も大変嬉しそうに一度に緊張がほぐれた顔をていた。そうゆう表情も外国の人のほうが豊かである。コンテストに出るような方々でもこうなのだから、もっともっと歌心をもって演奏しなければいけないなと考えている。

複音ハーモニカは、日本の女性が優勝した。自由曲はチゴイネルワイゼンだったが、あのテクニックが認められたのだろう。早い部分のテクニックは素晴らしかったが、遅い部分はミストーンが大分あった様に思った。表彰式の後の模範演奏でも同じようだった。

クロマチック部門は、クラシックもジャズ、ポピュラーも私なんかには分からない。中には相当個性的な演奏があり、大変興味深かった。

Ｘ部門（カテゴリＸ）では、外国の人がサンサーンスの「白鳥」を、バス・ハーモニカで演奏したのが大変ユニークでもあり良かった。ただしピアノとあまり合わせたことがなかったのか、テンポがずれてしまった。良かったところはシングルバスの音色が、まるでチェロの音色だった。この曲はＧメジャーだが高い音がはみ出してしまうので、Ｆメジャーに下げて演奏していた。このハーモニカは本体部の面積が広くてオクターブ間の幅も広く、舞台に上がってつばが出なくなったら、とても吹きずらくなる。

ワークショップスでは、１０ホールのビリーブランチが、アメリカでは子供たちにハーモニカを教えているが、第一に教えることはリズムであるといっていた。チッチキ、チッチキ、と会場の一人にリズムを刻ませて本人がホエンザセンスゴーマーチインを吹いたが、これがとてもグッドであった。この曲は少ない音で出来ておりやさしいから、誰かと二重奏するにはもってこいだ。二人で十分音楽になり、演奏会でやってみたいくらいだ。

同じくワークショップス、１０ホールのリーオスカーは、ビリーブランチとは対照的にハード面を強調していた。曲によってハーモニカをチューニングしろと言っていた。ＧをＣＭ７にチュウニングしたりすることは良く行なわれている。テクニックについてアウーがどうの、イウーがどうのと盛んに強調しているのだが、通訳がアウーがもじゃもじゃ、イウーがもじゃもじゃ、言葉を濁してしまいさっぱり分からないので、それがどうなのかと言うことを、はっきりしてくれと通訳の方に２度も言ったのだが、最後まで訳が分からなくて大変残念だった。それなら私が代りに説明しましょうと、一昨年の世界チャンピオンが関係ないことをしゃべりだしたので、オスカー先生が「モーヤメテー」と叫んだ一幕もあった。彼は演奏会では何時も、２本のハーモニカを持ち替えながら演奏している。

コンテストの表彰式もさすがに熱気があふれ、広くもない会場がむんむんしていた。優勝者の模範演奏も盛り上がった。こうゆうところでの演奏も外国の人のほうがうまくこなしていた。我が同胞はこちこちになっていた。舞台でこちこちにならない方法を教えてほしいものだ。クロマチック優勝者の演奏はテクニックもさることながら、音色が素晴らしかった。今回聴いたアドラートリオ、徳永延生、シグムンドグローブン、リーオスカー、森田幸一、それぞれが独特の素晴らしい音色をもっており誰の演奏かすぐに判別がつく。

今やシンセサイザーでは、ピアノ、ハープ、琴等の、撥弦楽器や、打楽器の音は本物そっくりに出せるが、ハーモニカはいくらシセサイザーでも真似が出来ないのではないだろうか。ただし複音ハーモニカはサンプリングさえ出来れば、完全な和音構成ですごい名演奏が出来そうなものである。

各社がハーモニカを展示していたが、ヤマハがシルバーなるハーモニカを出していた。ガラコンサートでクラシックの人達が出していた様な音がして、また音もスムースに出てバランスも大変よかった。コンサートでは、たしかビリーブランチがＹＡＭＡＨＡ、と言いながら一曲喜んで吹いていた（スライドレバーは使わずに）。ヤマハの人はラリーアドラーも使っていると言っていた。アドラーは大分前からシルバーらしきものを、使用していた。ホーナーハーモニカを使用していて知り尽くしている人が、あれはヤマハではない、ホーナーだと言っておられたそうだ。ヤマハでは、研究を重ねてやっと完成したといっていたが、７０万円とのことで買える訳ではないが、ヤマハ製なのか、ＯＥＭなのか大いに興味があるところだ。ホーナーのアマデウスはマウスピースのエッジがきつく唇が痛い、慣れるとそうでもないのかも知れないが、なかなか違和感のないものはすくない。

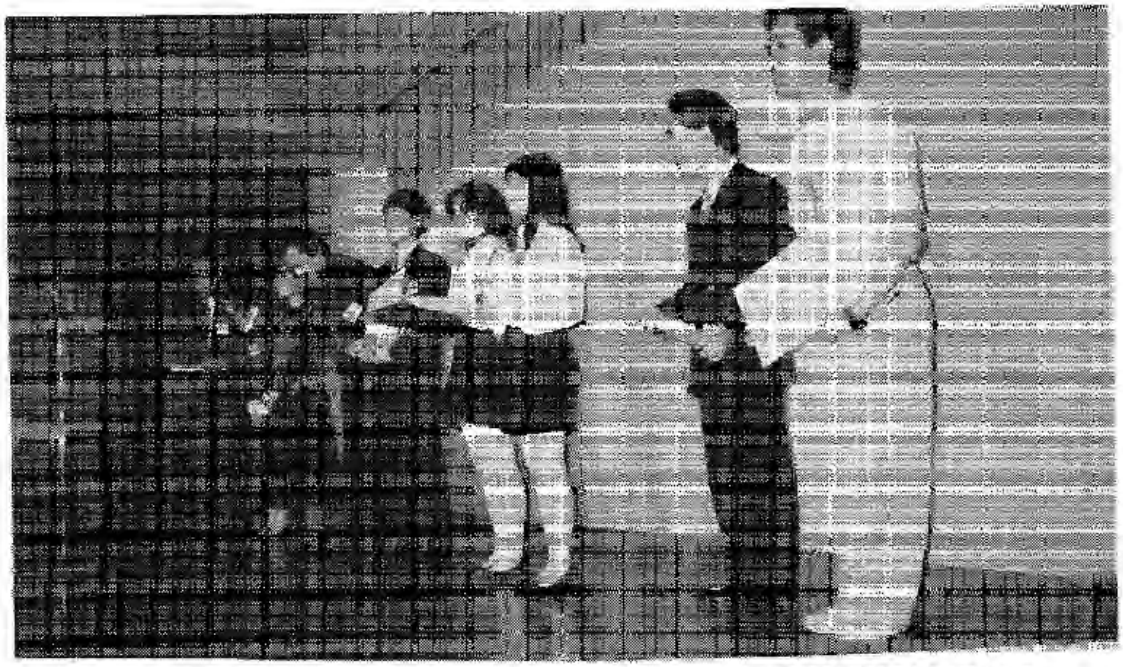
今回のフェスティバルでは、見るものが盛沢山で、せっかくの横浜の街も見られなかった。朝マリンタワーから山下公園、新港町の埋立地、国際橋、会場へと歩いたら４０分かかった。夜の横浜は野毛町で、疲れを癒すために？、一杯やっているところへ、八木のぶお、西村ヒロ、石川二三男の３人が入って来られたので、色紙に一緒にサインをお願いしたら、大変気持ちよくサインしてもらえた。そこから中華街を歩いて帰ったが、中華街は大変繁盛していた。ポスターにも載っていた中華街の「門」は、どれも素晴らしかった。

フェスティバルでの収穫の一つは沢山サインをもらえたことだ。クロードガーデンは色紙にとてもきれいにサインしてくれた。森本恵夫さんには１５日に中之島で情熱のこもったサインをしていただき、私の部屋の壁は一挙に賑やかになった。　ピートにしてもラリーアドラーにしても歳を感じさせない演奏を聴かせてくれた。音楽家では、指揮者、ピアニスト、チェリスト等が、長生きしている。これらは両手両足を使うのが良いのだそうだ。ヴァイオリニストは、首や体を曲げて演奏し、左耳で大きな音を聞くから良くないそうだ。チェロやピアノはあれで結構足でふんばっているのである。ハーモニカはどうであるかは分からないが、ハーモニカ吹きは我田引水的に、ハーモニカは健康に良いと言う。出来るだけ立った状態で吹いたほうが良いかもしれない（足を使うことを考えると）。

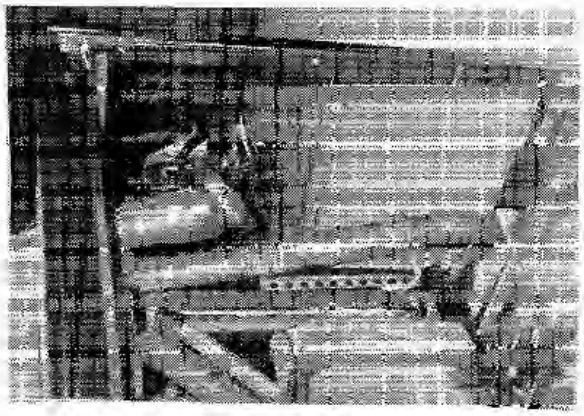
何と言っても今回これだけ興奮出来たのは、我が関西ハーモニカポップスがコンテストに出場したことである。一度舞台に上がると止められなくなる。指揮も一度やると止められなくなる。トスカニーニがそうである。学生時代ハモバンドの指揮をしていたが何とも言えないところがある。皇太子殿下がお弾きになっているビオラは、３日やると止められなくなると言われている、合奏の要になっていて全体がよく分かるからだ。高校時代オーケストラでビオラを弾いていたが、全体がよく耳に入りおもしろかった。ハーモニカももっとアンサンブルが多く育ってくれば良いと思う。アンサンブルにもビオラ的なパートを加えればよいように思う。中之島のコンサートで、ショパンの、ワルツ嬰ハ短調　Op. 64-2 に惚れ込んで演奏された方がおられた。私も吹いてみたいと思って楽譜は用意しているのだが、何時かあの方に負けないくらいの情熱を込めて、演奏してみたいと考えている。

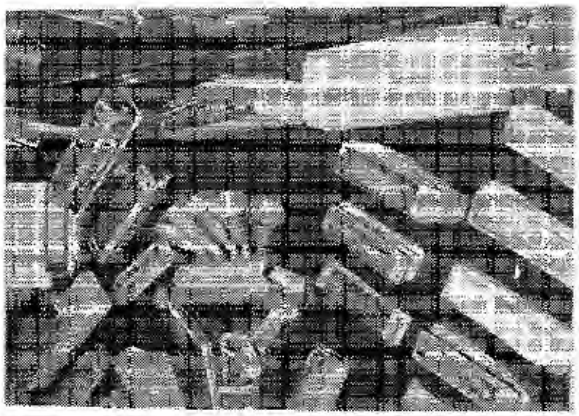
（敬称略とさせていただきました。）

クロマチック　ソロ　ジャズ　ポピュラー部門　第3位　木谷　悦子　さん
桂　三枝「ナイト　ｉｎ　ナイト」　に出演

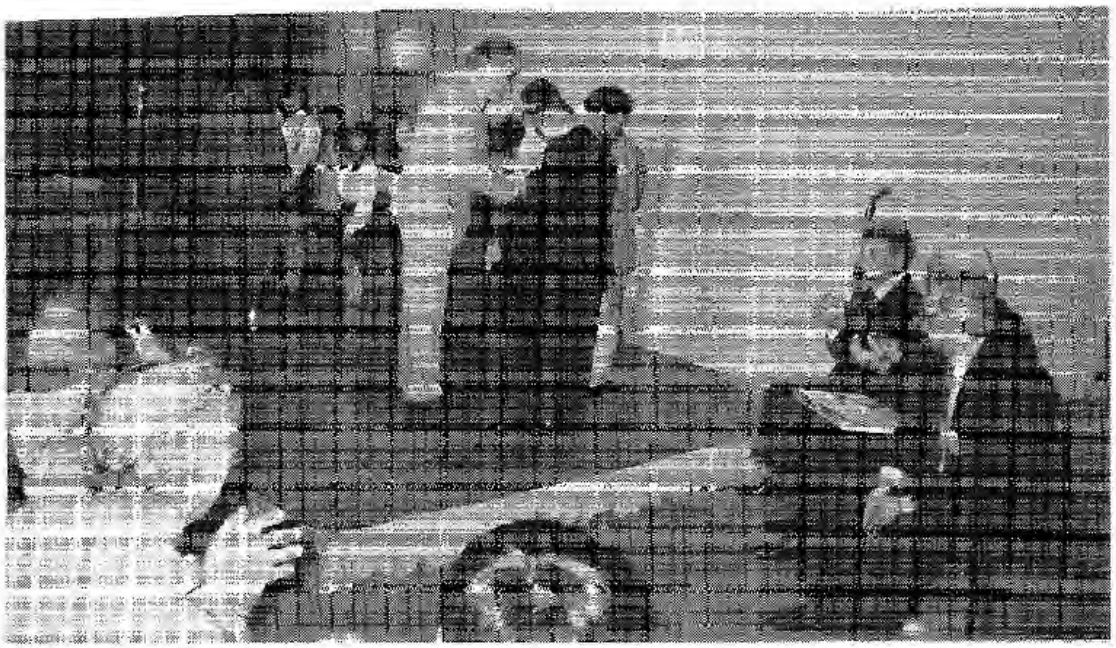


グループ（4人以上6人以下）の部でチャンピオンに輝き表彰を受ける
京都ハーモニカ・クァルテットの和谷　篤　氏





横浜ランドマークタワーでは、変わり種のハーモニカの展示も行われていた



グループ（7人以上）の部で表彰状を受ける関西ハーモニカ・ポップス
白鳥　達夫　氏

９５－１１－２４
関西ハーモニカ連盟

国際ハーモニカフェスティバル
１０／１２のスペシャルコンサート及びガラコンサートの
ビデオテープ
（注意、大阪のコンサートのものではありません。）

国際ハーモニカフェスティバル９５ジャパンで１０月１２日に行われたスペシャルコンサート（トレモロ）及びガラコンサート（ジャズ・ポピュラー）は、ＮＨＫが収録し、１１月１１日土曜日午後４時３０分から９０分にわたり、ＮＨＫ－ＢＳ２で放送されました。
内容は別紙のとおりで、クロマチックソロ、トリオ及び複音の演奏のみならず、ロビー風景、インタビュー等も入れて、カメラワーク、収録内容ともさすがＮＨＫという感じのものでした。画質もＢＳなのでいいものでした。
ただし、総合テレビではなくＢＳで放送されたこと、事前に放送時間について混乱があったこと（１１月３０日という噂もあり、一部雑誌にはそのように掲載されていた）等により、残念ながらご覧になれなかったかたも多くあったと思います。

会員が集まる機会にこれをお見せしたいと思いますが、自分でもコピーを持っておきたいというご希望があれば、特に会員サービスとして複製したいと思います。
ＮＨＫの放送ですので有料で販売することはできませんので、複製実費、郵送料実費、発送チャージ実費にて考えたいと思います。

ご希望のかたは、次にご連絡ください。

５９１堺市東浅香山町３丁１０４番地　５棟２０１号
吉村　則次（記念コンサート実行委員長）　電話及びＦＡＸ　0722 51-9398

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

年　月　日

国際ハーモニカフェスティバル
ＮＨＫ放送のテープ複製申込書

申し込み数量　　　　巻
送り先　〒

申込者名

電話番号　（　　）－（　　）－（　　）

以上

October 12, 1995 **WHF Gala-Concert**, Jazz and Popular
Copied from NHK-BS2 TV on November 11, 1995

Players and the Titles of Songs, Their Composers

The Adler Trio

Two Guitars	?
Tritch Tratch Polka	Johann Strauss
The Lonely Shepherd	J. Last
The Good, The Bad and The Ugly	Ennio Morricone
Can Can	Offenbach

Claude Garden

Les Feuilles Mortes (Autumn Leaves)	Joseph Kosma
The Preacher	Horace Silver
Over The Rainbow	Harold Arlen
Balade for Lonesome Cowboy	Claude Garden

Some Scenes of Lobby Hall
Some Scenes from the Contest of Diatonic Tremolo

Shigeaki Iwasaki(岩崎 重昭)

The Moon Over The Ruined Castle(荒城の月) Rentaro Taki

He Jia Yi (何 家義)

The Sun Is Shining On Tashikuergan (輝く太陽)

Yoshio Morimoto (森本 恵夫)

Fur Elise — Beethoven

Juko Saito (齋藤寿孝)

From Takuramakan (タクラマカンより)

Masami Oishi (大石 昌美)

Kawano Nagareno Yooni (川の流れのように) Akira Mitake(見岳 章)

Nobuo Tokunaga (徳永延生)

Interview

Black Orfeo (黒いオルフェ)	Luis Bonfa
Cerezo Roza (セレソ・ローサ)	L.G.Gublielmi

Lee Oskar

In A Sentimental Mood	Duke Ellington
Leslie's Song	Lee Oskar

Pete Pedersen

Everything I Know — Medley, arr Pete Pedersen
Medley of Ten Short Tunes
I've Got Rhythm (Gershwin), Carmen (Bizet),
Dance of the Comedians (Smetana), Lieberstraume (Liszt),
Tico Tico (Abrew), Galloping Comedians (Kabalevsky)
Czardas (Monti), Orpheus Overture (Offenbach),
Sabre Dance (Khatchatorian), 9th Symphony (Beethoven),

Misty	Erroll Garner
An American In Paris	George Gershwin

The Accompanying Players of Claude Garden, Nobuo Tokunaga、Lee Oskar and Pete Pedersen are Masahito Takaoka (piano)、Yasuharu Muramatsu (base) and Hidetoshi Ohmori (drums)

第２部 世界ハーモニカ フェスティバル ' 95 ジャパン

ＩＮ ＫＡＮＳＡＩ

関西初の世界ハーモニカ・フェスティバルは予定通り平成７年１０月１５日（日）、関西のハーモニカ野郎にとっては"ふるさと"とも言うべき、あの赤レンガ、大阪市中央公会堂で開催された。会員各位の懸命の祈りが天にも通じたのか、素晴らしい好天に恵まれ、熱気あふれる物となった。

会場は終始殆ど席が埋め尽くされ、いやが上にもハーモニカのすばらしさを世間に広く示す事となった。先ず、会員の出演もこれまでに無い多数であり、また 関西学院大学、同志社大学のハーモニカ・ソサイエティも出演し素晴らしい演奏を披露するなどの初の試みもあり、入場者も１００８人を数えた。

ハーモニカ渡来１００周年 記念コンサートを終えて

— 会員並びにご家族、関係者の皆様に —

関西ハーモニカ連盟
理事長　仲村 眞

平成７年、去る１０月１５日、大阪市中之島公会堂に於いて開催いたしました当連盟主催のハーモニカコンサートは、近畿地区に於いて行われたハーモニカコンサートでは、その意義に於いても、規模に於いても最大と考えられる記念すべき大会でありました。

渡来以来、第３次ハーモニカブームと言われる近年、各地で次々とハーモニカのコンサートが行われ、また同好会や教室も増加しつつあるとは言いながら、愛好者は別として一般の人々には未だ音楽としても楽器としても充分認識されているとは言えません。ＴＶや映画等でも画面に出るのはごく少ないながら、私どもハーモニカ愛好者の耳にはすぐそれと分かるバックグラウンドミュージックとして頻繁に耳にするようになっていますがまだまだ一般の人々にはその音がハーモニカだと言う認識がないため、演奏もあまり聴いたことがない（あるいは聴く気もない）人々が多すぎる気がいたします。

今回のコンサートはこれらの認識をかなり大きく一蹴して、ハーモニカの音楽性、娯楽性、そして楽器としての存在を世に知らしめたことで大きな意義が有った物と思われます

大成功の裡に終了したこのコンサートについては、当日参加された方々には既に目の当たりにされていることですが、この成功の裏には実行委員長の吉村則次氏をリーダーとして実行委員各位、連盟理事、顧問の先生方の情熱と多大なるご協力と犠牲、会員及びご家族、関係した方々のご理解、ご協力の上に成り立った事である事を思い紙面を借りましてここに改めて深く御礼申し上げます。

ここで特に一般会員の方々に当日の入場券について感謝とお詫びを申し上げたいと思い

ます。実行委員、顧問の先生方には、前売り入場券一人十枚割り当てと言う応分のご協力を頂いた事ではありますが、経済的な制約もあり、一般会員の方々には着々と準備されていった大会開催への情報を逐一お知らせ出来ないまま、入場券（前売り）を送付し買い入れを強要した形になったことを不快に思われた方も居られると思います。先ずこのことにお詫びを申し上げ、なおご協力頂いた事に感謝いたします。

思えば一年以上前からこの大会に向けて結成された実行委員会は（会報１２３号にも載せましたように）常任顧問１名と常任理事９名の計１０名からなるものでしたが、記念コンサートは今年をおいて他なく、失敗は許されません。結果は当地のハーモニカ界の浮沈に拘わる大事業でした。

そして準備の初段階から、越えねばならぬ難題が山積していました。先ず開催時期は横浜の世界大会終了後一日置いた１５日の日曜日しかありません。Ｐ．ピーダスン（米国）や和谷泰扶さんご夫妻（ドイツ在住）などの一流アーティストが世界大会のために来られているので終了後の日数は空けられません。場所は大阪は伝統の中之島公会堂が選ばれたのですが準備も併せて土、日連続の確保は困難でした。６カ月前に借用予定者が並んでくじを引いて１日ずつ確保する規定になっていたからです。古い建物なので音響設備も不備でした。一時は全く諦めていたいたときに後藤貞男氏の紹介で市会議員の菅井敏男先生が大会の意義を理解下さり、そのお世話によって何と１０月１４日（準備）、１０月１５日（演奏日）の両日が確保出来たのでした。高いハードルが一つ越えられました。しかし問題は次々と出てきます。観客の動員の問題（１７００名収容のホールの内少なくとも一階部分の１０００名の観客を動員出来るのか）、収支の問題（準備費、会場費、音響設備費演奏者謝礼等で果たして収支ゼロに為しうるのか）など一つ間違えばガラガラの会場で盛り上がりを欠き、多額の赤字を残してその結末をどう取るのかと言う危惧を含んでいました。そんな重圧を感じながら準備はやや強引な対応策は止む終えずの結論に至りました。

結果の大成功の話は実行委員長の吉村氏に譲り、私はこの辺で筆を置きますが、終了後の感謝と安堵を思いつつ会員の方々に押しつけた入場券について今私が激しく悔やむのはその前におひとり、お一人に直筆は無理でも、せめて電話ででもご協力をお願いした上で券を送付させていただくと言う努力をしなかったのか・・・それぐらいの情熱をなぜ傾けられなかったのか・・・と言う自責の思いです。

どうかこの度の事に懲りられることなくハーモニカの仲間として当連盟への変わらぬご友誼、ご協力をお願い申しあげます。有り難うございました。

こぼればなし　第２部の開始前、中之島公会堂の前には約１０００名の観客の長蛇の列が出来ましたがこの様なことは、ここ１０年来無かった事であったそうです。また、この列を見て内容を聞き、すぐ入場券を購入された方も居られたそうです。
また、１４日には「おはようパーソナリティ　道上洋三」の放送時、徳永延生さんの演奏場所（淀川の右岸のＪＲの鉄橋の下）に駆けつけ、リクエストした方が、前売り券をわざわざ準備中の中央公会堂へ見えられて購入されました。こんなにハーモニカを愛するファンの方も居られるのかと一同、心強くなった次第です。

95－11－24

1008名の入場者が感激しました

記念コンサートを顧みて

ハーモニカ渡来１００周年記念コンサート実行委員長
吉村　則次

『あんなことがハーモニカでできるなんて、初めて知りました』『最後のジャム・セッションはいつまでも続けて欲しかった』『どんなハーモニカを使ったらあんなことができるのですか』『１０分前に来たのに会場の周りは長蛇の列でハーモニカの人気にびっくりしました』
コンサートが終わってからの聴衆のかたの声でした。
ハーモニカの新しい面をお見せできたと思っております。

今回のコンサートは、なにからなにまで、我々が今まで行って来たものとは大きく異なりました。
第１に、ハーモニカ渡来１００周年といういい機会をとらえ、このハーモニカコンサートを行うことによりハーモニカ愛好者を再び呼び戻し、ハーモニカ愛好者を増やし、ハーモニカ音楽を拡大させるという目的を持ってことに当たりました。
このために、我々は今までやって来たように、連盟の会員を中心にその家族お知り合い等のみを集めてコンサートを開こうと計画した訳ではなく、今回はそのほかハーモニカの世界の外のかたがた（ハーモニカを全然やってないかた、ずっと前にハーモニカを吹いたことがあるかた、ハーモニカには全く興味がないかた等）を集め、ハーモニカを拡大しようとしたことでした。
海外から演奏者を呼んだこと（ピート・ピーダスン氏及び和谷泰扶氏）、立派な歴史のある１７００名も収容できる会場を借りたこと、きれいな写真入りのチラシを１２０００枚も作り配布したこと、プログラムも１２ページの写真及び広告入りのものを作ったこと、地下鉄・バスの『沿線ご案内』にも宣伝したこと、新聞社にも記者発表を行ったこと、など今までにはなかったことです。
元総理大臣宇野宗佑さん、大阪市長西尾正也さんから祝電をいただいたことも、今までにはなかったことでした。
当日券が１２２枚も売れたことは、単に嬉しいだけではなく、今回のコンサートの大きな象徴的なことでした。
会場を取り巻く長蛇の列に誘われて、たまたま通りがかりのかたも有料で入られました。
お陰様にて１００８名という多くの入場者を迎え、皆さんに満足していただきました。
途中で帰られたかたがなかったことがそれを証明しております。
その入場者の中には、世界ハーモニカ連盟（ＦＩＨ）会長のクツリさん、ドイツ、ホーナー社からの代表者ミラーさん、その他著名なかたもおられました。
また、２６６通のアンケート回答をもらったこと（別の記事ご参照）、これは入場者

４人に１人が出してくれたことになり、アンケートとしては異例に大きな回収率でした。

連盟の皆さんの努力により予想より多くのチケット販売があったので経費的にも潤おいました。
しかし、数字の上では黒字となりましたが、この裏には理事会員の手弁当と自腹があったことを考慮しなければなりません。すなわち、実行委員は手弁当で毎月の会議に出席し、自分の金で電話をしＦＡＸし郵送し、コピーをとりました。
理事のかたには、チケットを最低１０枚割り当て販売をお願いしましたが、それが一部分自腹になったかたも多くあります。
チケットを知り合いに送ったが、代金がとれなかったというかたもおられます。
第２部の演奏者には、安いギャラで出ていただきました。
そういうものがあって始めて黒字になったということであります。
われわれ連盟の実行委員会（１０名）の企画と１年以上に亙る長い期間の努力も大きかったわけですが、それよりも理事長を始めとする会員各位、理事各位の我々の企画に対し賛成し協力し、そろって宣伝とチケット販売に努力してくれたことが大きな力になりました。
また、積極的な出演者に助けられました。すなわち、第１部においては５６組の出演申し込みがありました（ソロ３４、グループ２０）。この数は今までにはなかった大きなものでした。同志社及び関西学院という二つの大学のハーモニカソサイァティにも参加いただいたのも初めてでした。時間内に演奏を収めるのに心配したくらいでした。
第２部の出演者も、アメリカからピート・ピーダスン、ドイツから和谷泰扶氏、それに我々関西の誇り、徳永延生氏、京都ハーモニカカルテット、吉森正隆氏、小林忠夫氏と、そうそうたるメンバーがこころよく受けてくれて、一生懸命やってくださいました。
当連盟の特別顧問の森本恵夫さんも、東京から駆け付けて出演してくれました。
また、高岡正人さん（ピアノ）、上山崎初美さん（ベース）、中島俊夫さん（ドラムス）ほか和谷麻里子さん、木下加奈美さん、恒川富雄さん、辻晋哉さん等の伴奏のかたがいなかったら、ああいうことは出来なかったと思います。

このほか忘れてならないのは、無償で働いてくれた多くの協力者がいたことです。
４０名の理事全員にはなんらかの役割をしていただきました。
受付に当たったために、あの素晴らしいコンサートを全く聞けなかったかたが多くおられました。
金の支払いと受取りで、それどころではないというチケット担当者と会計部のかたもおられました。
マイクロホンを運ぶ音響さん、弁当の係のかた、ＰＡ（オーディオ）の係のかた、ステージの係、等々、目に見えないかたが多くおられました。
両大学からもそれぞれ係を出してもらいました。

会場を埋め尽くした観客

ハーモニカ関連業者さんの協力も大きかったと思います。
トンボ、モリダイラ、スズキ（ハーモニカ振興会）というメーカー・デイーラーさん、梅田ナカイ楽器、ソハマ楽器、三木楽器等の小売店さん、それにハーモニカ教室も開いている、朝日カルチャーセンター、ＮＨＫ大阪文化センター、カワイ音楽教室、京都のＪＥＵＧＩＡ等々から多額の協賛金をいただき、またトンボ、モリダイラ、スズキはロビーに出店もしてくれました。

このコンサートの効果というか結果は、これから出て来るわけで、我々は、入場者が多くて経費的に賄えた、喜んでいただいたというだけでよしとすることなく、我々の最終目的が「ハーモニカ愛好者を増やすこと」「ハーモニカ音楽を拡大させること」にあったことを思い出し、今後努力を続けて行く必要があります。

感謝したいことはほかにも一杯ありますが、誌上でできないのが残念です。

これを機会に、皆さん力を合わせて、我々の愛するこの小さな楽器、ハーモニカ、を盛り上げようではありませんか。

以　上

お祝い

花
お届日１０月１２日午後

大阪府　堺市　東浅香山町　３丁目　１０４番地　５棟　２０１号
吉村　則次　様

ハーモニカ百周年　誠におめでとうございます。
私もハーモニカを愛する一人として心よりお祝い申し上げ、
こうした音楽祭がますます盛んになる事をお祈り申し上げます。

元内閣総理大臣
衆議院議員　宇野　宗佑

お祝い

花
お届日１０月１５日午前

大阪府　大阪市　北区　中之島　１－１－２７
中央公会堂
関西ハーモニカ連盟　実行委員長　吉村　則次　様

ハーモニカコンサートのご開催を心からお喜び申しあげますと
ともに、コンサートのご成功とご出演の皆様方の今後ますますの
ご健勝、ご活躍をお祈り申しあげます。

大阪市長　西尾　正也

95－11－24

日本のハーモニカ友達の皆さんへ

アメリカでは、自分が死んだときには天国に行きたいと、みんな思っております。
けれど、ハーモニカ奏者は死んだときには日本に行きたいと望んでいると、私は思います。なぜなら日本はハーモニカの天国だからです。
今回は、私にとって3回目の日本訪問でした。行くたびに日本及び日本で会った人々に対する愛と尊敬が大きくなります。また行くたびに友達がどんどん増えて行きます。
その友愛を大事にし、また日本の人々が私を家庭とそれぞれ心の中にに招待してくれたことを大切にします。

吉村さんは私の演奏ツアー全般にわたり案内してくれて一番よくやってくれました。いい信任者であり、通訳であり、その上なによりもいい友達でした。
その友愛を一番大事にします。

また、高岡正人(p)さん、村松泰治(b)さんほか素晴らしい技能で私の伴奏に当たってくれた素晴らしい日本の演奏者に感謝したいと思います。
演奏ツアーはハーモニカ奏者の夢でありました。
リー・オスカー、クロード・ガーデン、偉大なジャズ演奏者である徳永延生さん、それから信じがたいテクニシャンである和谷泰扶さん、等素晴らしいアーチストと一緒に演奏できたということは、非常に光栄なことでした。
ハーモニカ界を代表するラリー・アドラー、アドラー・トリオそれに多くの日本のハーモニカ奏者と一緒に仕事ができたことも非常な喜びでした。
ハーモニカに対する愛はどこも同じだということを証明してくれました。
それぞれお互いに完全な「ハーモニー」で仕事をすることができました。またこの「小さな驚き（ハーモニカ）」に対して感じる喜びと幸せを分かち合いました。

フェスティバルに参加した人々の名前を全部挙げることは困難です。しかしこのフェスティバルを実現させた親切、協力、友好を挙げることは易しいと思います。
なぜならみんなハーモニカを愛しているからです。
私は、いつも『ハーモニカ』と呼ばれる国際言語があると感じています。
ここではハーモニカに対する考え・見方、愛を共有し、お互いに理解しています。

6才から90才までの人があのように素晴らしい技能でハーモニカを吹くのを聴くことは、心暖まることでした。ダイアトニックや複音奏者だけでなく、クロマチックもバスもコードも同じです。
各種のコンテストの審査員に選ばれたことも大きな光栄でした。そこで聴いたことに大きな感動を得ました。もし私に許されることなら、全員に1位にあげたいと思いました。

アメリカの偉大なシンガー、トニー・ベネットが「アイ・レフト・マイ・ハート・イン・サンフランシスコ」を歌いましたが、私は「アイ・レフト・マイ・ハート・イン・ジャパン」と思います。

また次にお会いすることを楽しみにしています。いつでも、どこでもいいですね。早い方がいいですね。
おおきに

ピート・ビーダスン

November 24, 1995

An open letter to all of my harmonica friends in Japan

In America, we hope that when we die, we will go to h [illegible] hen a *harmonica* player dies, he hopes to go to Japan, ... be [illegible] heaven.

This was my third trip to your country, and each time [illegible] d respect for Japan, and the many people I have met th [illegible] n more and more friends, and treasure those friendships, and [illegible] e taken me into their homes and their hearts.

Mr. Yoshimura has been most kind in the way he has [illegible] my engagements; acting as my confident, my translator, a [illegible] iend. And I will always treasure that friendship.

I'd also like to thank Mr. Takaoka and Mr. Muramats [illegible] e musicians who accompanied me with such skill. The e [illegible] ica player's dream. To play along side such wonderful art [illegible] Claude Garden, the great Jazz player Mr. Tokunaga, and the incredible technician Mr. Watani was indeed an honor. It was also a true pleasure to work with Larry Adler, who has represented the harmonica so well in his career... The Adler Trio, and the many Japanese harmonica players: proving how universal the love for harmonica is. We were able to work in perfect harmony with one another, and share all the joy and happiness we feel for this "small wonder."

To mention all of the names of the people who participated in the festival would be difficult. But to mention all the kindness and cooperation and friendship that it took to put this festival together would be easy.... because everybody loves the harmonica. I have always felt that there is an international language called "Harmonica," where we all understand one another; sharing our thoughts, views and love for the this instrument.

It was heart-warming to hear players from six to ninety years old play the harmonica with such skill. Not just diatonic or tremolo players, but chromatic, base and chord players as well. It was a great honor to have been chosen to judge the various contests, and I was so impressed by what I heard, that if it were up to me I would have given everyone the first prize.

The great American singer Tony Bennett sang "I left my heart in San Francisco." I think I left *mine* in Japan.

I look forward to our next meeting, wherever and whenever. The sooner the better.

Ookini,

Pete Pedersen

念願の夢

大阪市中央公会堂で関西ハーモニカ・コンサート開催

吉森正隆

昭和12年11月、所は、大阪中央公会堂、第一回関西中等学校ハーモニカ合奏競演会が開催され、課題曲、タイケ作曲、「旧友」の演奏が始まり、続いて自由曲「序曲、われ若し王者なりせば」の演奏を力一杯に演奏して、優勝をかざる事ができました。この年、4月に興国商業学校に入学、直ちに音楽部(ハーモニカ・バンド)に入部、初の晴舞台が、この中央公会堂でした。以後毎年11月にこの競演会が、ここで、開催され、翌年は、3位になきましたが、その後、3年連続の優勝を飾れ、毎年ＪＯＢＫ（大阪中央放送局）から、ラジオ放送をしました。昭和16年の第五回の自由曲は、序曲「セビリァの理髪師」で、全審査員の最高得点で、完全優勝を成し遂げました。そして、昭和13年から入団しておりました大阪ヤマハ・バンドの指揮者、庵原要二郎が、興国商業のバンドを指揮して、ヤマハ・バンドの演奏としてＪＯＢＫから放送、テレビの無い時代ですから、こんな事が出来たのでしょう、勿論、小生と岸田慶蔵君は、ヤマハのレギュラーでしたが

一年間、毎日、夜遅くまで、また休日も返上しての猛練習で、ヤマハ・バンド以上の水準になっていたので、このようなことが出来たのでしょう。私のハーモニカ歴の中でも最強のバンドでした。このような事から、中央公会堂は、ハーモニカの甲子園とも言うべきで、正にハーモニカのメッカでした。　戦後、幾星層を経て、いろいろな会場で、ハーモニカの独奏、合奏をやって来ましたが、個人での出演は、一度だけ有りましたが、ハーモニカのメッカ公会堂で、関西ハーモニカ連盟の主催で、コンサートを開催すると言うのが、私の夢で、絶えず口にし、考え続けておりました。然し会場は、余りにも大きく（1,700名収容)、例年の連盟ハーモニカ祭りでは、とても開催は難しく夢で終わってしまうのかと思いつつ、思い続けるのが、達成への道と信じておりましたが、幸いハーモニカ渡来１００周年の記念行事を開催することとなり、実行委員会で、私の夢、公会堂での開催を提唱しまして、仲村理事長、吉村実行

委員長、新井事務局長、後藤編集局長、その他、実行委員、常任理事、理事の皆さんと学生団体の協力で、昼の無料のハーモニカ祭りの人員に倍する、１２００名余の有料入場者が、開場の一時間前から、並び初めて、図書館の前まで、行列が出来る言う、公会堂の催しでは、見られない事態が起こり、主催者一同、大感激でした。中でも,私は汗と涙の猛練習で,晴れ舞台で飾った、この中央公会堂で、１９９１年度、世界チャンピオンの肩書で、独奏をすると言う栄誉に、感激一入，古稀記念の出版、ＣＤの発売に倍する、今日の夢の実現に、感涙に咽びました。改めて関係者一同のご努力に厚く御礼申し上げます。

さて、今回のハーモニカ・コンサートは、ピート・ピーターソンを始め、世界的に知名度のあるプレーヤーが一同に会し、従来のハーモニカ愛好者の集まりから、大きく前進して、一般の音楽愛好者の方々にも多数お出で願って、ハーモニカを認識して戴いた事に、大いに意義が有りました。プログラムの内容、感想に就いては、他の方の感想文に譲りますが、クロマチック（クラシック・ジャズ）、複音の独奏、ジャズ・セッション、２回連続で、世界チャンピオンを獲得した、京都カルテット、バラエティーに富んだ、曲目構成で、聴衆を魅了し、正にハーモニカ復権元年というに相応しく、新しいファンを獲得出来たと、喜んでおります。

私事ですが、3月7日の古稀誕生日に毎日放送で120分番組、7月16日ラジオ大阪30分、5月15日、朝日新聞5段抜き写真入り、10月1日大阪民主日報5段抜き写真入り、コンサートＰＲにご協力戴き、感謝いたします。

また、リサイタルを含む十数回の演奏会にお見えの皆様方のご来場にも感謝して、感想文と致します。

盛りだくさんの変化に富んだ
最高に素晴らしいコンサート

ハーモニカ奏者　　徳永　延生

横浜での4日間に及ぶハーモニカ渡来１００周年フェスティバルも無事終わり、いよいよ大阪でのハーモニカコンサートは中之島公会堂で行われた。午前からアマチュアの出場で時間的余裕が無く、ドラムやベースのセッティングでかなりあせったが何とか開場時刻午後５時に間にあった。今回バックを務めてくれたミュージシャンはピアノが高岡正人、ドラム中島俊夫、ベース上山崎初美といずれも関西を代表するトップアーティストでその演奏力のすごさは当日見られた方はご承知の通りである。私のハーモニカトリオの演奏にもドラムの中島氏は飛び入り参加され、おかげで楽しく『セレソローサ』・『鈴懸の径』『熊蜂の飛行』と３曲リズミカルに演奏することが出来た。これからのハーモニカアンサンブルもこの様なスタイル（ドラムやパーカッション）等を入れてみればとても楽しいと思う。

ピートの演奏力はやはりすごい。特にタングブロック奏法《つねに２～３ヶの穴を口の右端からリード（空気を送る）奏法》のまろやかな音色とオクターブや１０度奏法等厚みのある演奏には目をみはる物がある。ピートとのセッション曲　『A列車で行こう』　や『ブルーボッサ』では私のメロディーに対して即興のアレンジで音楽性の深さを見せつけてくれた。アドリブはとてもメロディックですごくスウィングする上にユーモアのあるフレーズもあり、とても素晴らしかった。

アンコール曲『枯葉』の時には会場は最高の盛り上がりをみせ、若者達は肩を組んで踊っていた。いつまでも演奏したかったが。時間は既にオーバー気味，最後に会場の人もハーモニカを取り出して『スワニー川』そして『聖者の行進』の２曲を演奏し幕は閉じた。

複音ハーモニカのすばらしいソロや和谷氏の見事なクラシックハーモニカの世界あり、京都カルテットの楽しい演奏あり、私たちのポピュラーなハーモニカアンサンブルあり、ピートのジャズの世界あり、そしてピートと私のジャズのセッションありと盛りだくさんの変化に富んだ最高にすばらしいコンサートになったと思う。もう2度と無いかもしれないこの様な大規模なハーモニカコンサートをここまで大成功に導いたのは、仲村　眞さん吉村則次さんをはじめ多くのスタッフの皆様の一年以上に及ぶ努力のお陰である。ここに心から感謝の意を表します。本当にご苦労様でした。

ここまでの規模では無理としてもこの様なハーモニカのコンサートはこれを機に定期的に続けていければとても素晴らしいと思う。

平成７年１０月１６日.

95－11－23

２６６の貴重なご意見
ありがとうございました。

関西ハーモニカコンサート（１０／１５）のコンサートアンケートを顧みて

１００周年記念コンサート実行委員長　吉村　則次

前の記事で述べましたように、今回のコンサートには、１００８名の入場者がありました。

次の目的のため、我々は入場者に対しアンケートをお願いしました。

1、ハーモニカ愛好者の住所氏名を集めること。これによりハーモニカ愛好者リストを作成し、今後のコンサート等の案内ができるようにしておくこと。
2、関西ハーモニカ連盟の会員の増強をすること。
3、ご意見を集め、今後のハーモニカコンサートのため、参考にさせていただくこと。

これに対し、２６６人のかたから回答を提出をいただきました。この数は実にチケットによる入場者９０９人の２９％に当たり、入場者３．４人のうち１人が提出したことになります。
この種のアンケートとしては、非常に大きな回収率であったと思われます。
提出の時期は、当日提出２４６人、９２％、のほかに後日に提出されたかた２０人、８％であり、わざわざ郵送料を払い、ＦＡＸで送り提出された意気込みが感じられました。

何によりこのコンサートをお知りになりましたか。

会員が勧誘・案内したもの	１２７	４８％	教室含む
その他知り合い・先生	６６	２５	勧誘した個人名記入なし
連盟からの案内（会員及びその家族）	２３	９	
ルート全く不明	１５	６	ルート記入なしのもの
以上小計	２３１	８８％	
チラシによるもの	１３	５	店頭等
新聞ラジオによるもの	１５	６	朝日新聞等
地下鉄・バス案内	４	２	
偶　然	３	１	現地に来あわせて
以上小計	３５	１４％	
合　計	２６６	１００％	

連盟の会員理事自身及びその家族等のご努力による入場者が全体の８割５分

推定９００名おられるのは当然ですが、ここで注目したいのは、会員や先生からの勧誘ではなく、チラシ、新聞・ラジオ、地下鉄・バスの案内によりおいでになったかたが１４％、推定１２７人もおられたことです。
チラシを１２０００枚印刷しばらまいたたこと、新聞発表をしたこと、「おはよう朝日道上洋三です」に徳永延生氏が演奏しこのコンサートを宣伝したこと、大阪市交通局に地下鉄バスの『沿線ご案内』に掲載されたこと、等の効果が表れました。
それに驚いたことには、公会堂を囲む長い列を見て興味を持ってその列の後ろについて、有料で入ったというかたも推定１０人もおられたことでした。今までになかったことでした。

アンケート回答者の中で一番遠かったのは広島、次に岡山、三重県のかたもおられました。感激です。

アンケートの回答により、今回のコンサートはどうだったのか、いろいろ探ってみました。（多過ぎて全部ご紹介できないのが残念です。）

『驚きました』

さすがにプロの名に恥じぬ名演技に感激、今までのハーモニカに対するイメージがすっかり変わりました。（東大阪市Ｔ男５０才）
今日は本当にびっくりしました。カルテットになると、また違った楽しさがあるのですね。それから、複音ハーモニカを演奏される方の口の中はどうなっているのでしょうか。また、演奏されるみなさんの肺の中はどうなっているのでしょうか（堺市Ｋ女２９才）
Feel So Good! いい一日でした。レトロな雰囲気が残る中央公会堂でのコンサートがもっと数多く催されればいいなあと思っています。（東住吉区Ｔ女２８才）
初めて海外の方の演奏を聞かせていただきました。すばらしくすごく感動しました。（下京区Ｈ女２４才）
ハーモニカに対する概念が変わりました。（豊中市Ｋ女）
ハーモニカにプロが存在していることも初めて知りました。（奈良県Ｍ男５８才）
ビーダスンさんの音色はすばらしかった。巾広い表現の仕方に驚き感じ入りました。（神戸市Ｕ女）
自分のハーモニカと違うのではと思うくらい、ハーモニカの素晴らしさを存分に発揮、信じられないようなハッピーな気持ちになりました。（枚方市Ｓ女１００才－Ｘ）
１級の人は何の楽器を持っても１級は１級なのですね。大阪にはすごい人がいるんだなと嬉しくなりました（徳永延生さんのこと）。ハーモニカで今日のような素晴らしい演奏があることすら知りませんでした。こんな楽しいコンサートを子供達に聞かせたら（特にジャズ）ハーモニカの未来は明るいのではないでしょうか。（旭区Ｓ女５５才）
のばした音の響きがすごく良かった。さすがプロの方たちだと思いました。ジャズの

ハーモニカの音の動きが早く、とても楽しくリラックスして聞けました。（下京区U女３３才）
会場の雰囲気の盛り上がりには驚き、最後まで鑑賞させていただきました。（堺市T男７２才）
ピートの演奏をもっと聞きたかったです。（奈良県Y女４４才）
とてもよかった。ピーダスンと徳永さんのハーモニカ、楽器は同じようなのに音色の違いが面白かった。（東大阪市I女）
京都ハーモニカカルテットの演奏素晴らしかった。聞かすだけの演奏から見せる演奏へと成長された。和谷さんのクラシック、以前帰国されたとき初めて聞いたが、今回さすがと思わされる演奏だと思った。（宇治市Y女７３才）
大変よかった、ハーモニカのジャズがこんなにすてきとは思わなかった。ＣＤがほしい。（吹田市F女）
「現在店頭で手に入るジャズ・ハーモニカのＣＤをいつか会報でご案内しましょう。」（筆者）

『ハーモニカに戻りたい？』

正直言って自信がなくなりました。あまりにも素晴らしいテクニックとは、私には何十年たっても出来そうにありません。（吹田市F女５７才）
自分でも吹いてみたいと、いや吹けるのじゃないかと錯覚してしまいますが、やはり私は聴かせていただく方に専念します。よろしく。（西宮市Y女６０才）
僕もやりたいなあと思ったけど、無理そう。（西宮市I男２０才）
「同感です。自信を失ったかたも多くおられました。が、そう言わずにやってみましょう。」（筆者）
一流中の一流世界No.1ばかりの人達の演奏を聞き、感激致しました。７０才ですがもう一度頑張って練習して見たいと思います。（兵庫区G男７０才）
今日をきっかけにハーモニカをもう一度吹いてみたくなりました。（東灘区T女２０才）
息子とデュエットもしてみたいと思っています。（上京区K女３７才）
「多くのかたにハーモニカに戻っていただくこと、これは我々の願いであり、このコンサートの目的でした。」（筆者）

『たかがハーモニカ？』

素晴らしいの一語です。ハーモニカは音楽の基礎を学ぶ楽器ぐらいに思っていましたが、認識不足を恥じ入るばかりです。ピーダスン氏と徳永さんの共演は圧巻でした。互いにプロフェッショナルであり、国境を越えた楽譜があって、、、。（天王寺区F男６１才）
私はハーモニカは、かくし芸的に吹いてしました。会場売店でＣＤを４枚も購入しました。これを聞きながら自己流で細々とやっていこうと思っています。しかし、いつ

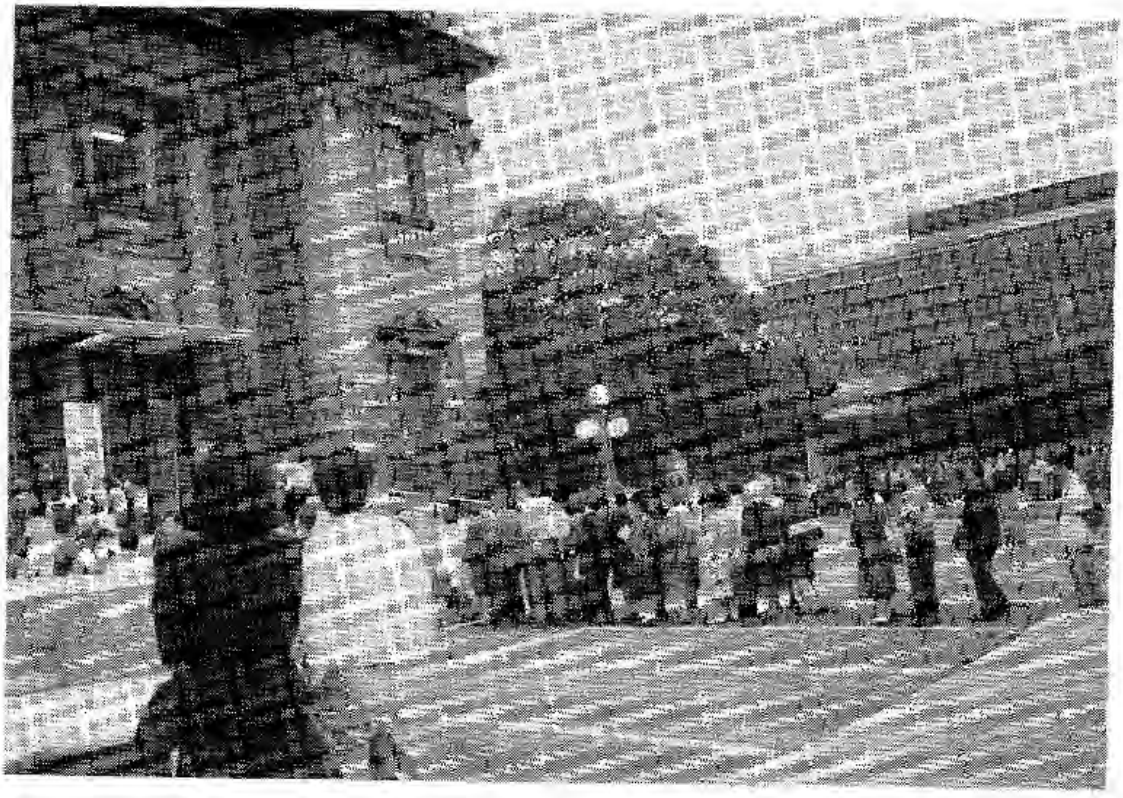
かスクールにでも入って、きっちりと練習したいですね。（奈良市Ｓ男２９才）
ハーモニカがこんなにすばらしい音が出るとは思っていませんでした。セッションもとても楽しかったです。思わずリズムに乗り身体が動きました。ピーダスンさんの演奏はもう一度聞きたいです。津田？、枚方？のコンサートの日時至急お知らせください。（東大阪市Ｎ女４５才）
ハーモニカは楽器の中ではマイナーだと思います。しかし聞いてみると素晴らしい楽器なんです。私の思っていましたイメージと全く異なりビックリしました。ハーモニカが奥の深い楽器だと認識しました。（三重県Ｔ男４３才）
今まで「たかがハーモニカ」と思っていた自分が恥ずかしくなりました。このコンサートに来れたことに感謝！！予定を切り上げて東京から帰ってきたかいがありました。（京都市北区Ｍ女２１才）
手の中でおさまる楽器がすごい楽器であることをあらためて認識しました。（豊中市Ｎ女６６才）

『これがハーモニカ？』

ハーモニカ？まるでトランペットやサキソホーンかな？と思うほどの幅の広さ、２時間があっという間に過ぎ、とても名残り惜しかったです。（堺市Ｓ女）
ベリーＧｏｏｄ！！ハーモニカの概念が変わった。まるでハーモニカじゃないみたい。（都島区Ｋ男３２才）
何とも言えない軽やかさと、哀しさと、深みに涙してしまったのが、徳永氏のハーモニカでした。（大東市Ｙ女４２才）
この感動は忘れることが出来ないと思います。（岡山県Ｋ男６５才）
あらためてハーモニカの多様性を発見した思いです。（東住吉区Ｏ女６３才）
ハーモニカの音色がときにはサックスの音になり、ときには弦楽器の響きにも聞こえる各奏者のテクニックの素晴らしさ、和谷泰扶に至っては芸術そのものだと思います。（大東市Ｈ男５８才）
これもハーモニカなのかしらと感激し、思いを新たにしました。血が騒ぐ事しきり。多分今夜は眠れない事でしょう。（東灘区Ｔ女６６才）
こんな小さな楽器から？？？こんなスパラシイ！！音色。人生の感動や思い、総てが伝わってくるかの様です。音楽に国境はなしということもあらためて知らされた（豊中市Ｕ女４５才）
「本当にハーモニカ？」と思わせられる程すばらしい繊細な音色に魅せられてしまいました。日本の名人を一堂で聴くチャンスをあたえられたこと嬉しい一夜です。

『ワンダフル・ワールド・オブ・ハーモニカ』

会場の全員が一体になっているような雰囲気でした。私は「誘われて来ただけ」でしたが、想像していた以上に素晴らしい時を過ごすことができました。（西区Ｔ女）
ハーモニカのこんな素晴らしい世界があった、、、と初めて知りました。すばらしいかった。（奈良市Ｕ女）
クラシックもすばらしいですが、ジャズのジャムセッションが生で聞けてよかったです。（吹田市Ｓ女５０才）
しばし天国に行ってきたようです。（高砂市Ｋ男３８才）
東京大阪の両会場で聞き、奥の深いことを知りました。（広島市Ｈ女）
イシハラホール１０／８において和谷泰扶ハーモニカリサイタル、あまりの感動に、もっと聴いてみたくて今度は友人を誘って来させていただきました。いろんな形式があるのも初めて知りました。感動していると、ただ一言です。（豊中市Ｆ女）
ノリもよし、みなさんすごい、やっぱりピートさんいいです！最後の全員でしめるあたり今回の成功はここにあり、とみた。（東淀川区Ｎ女２３才）
ど迫力、楽しい、愉快な、なつかしい、ハーモニカのすばらしい演奏。（西京区Ｎ男６６才）
朝の１０時から夜の８時まで聞いてもまだ聞ぎたいです。（都島区Ｔ女７１才）
小林忠夫先生、吉森正隆先生らはさすがで、初めて聞く和谷泰扶さん、徳永延生さんらも素晴らしかった。ピート・ピーダスンさんか高齢なのに、息づかいも感じさせずに迫力ある音量で、身体のそこまで響きわたった。（大東市Ｍ女４０才）
「ピーダスンはまだ７０才です、そう高齢ではありません。」（筆者）
すつかり「とりこ」になりそうです。（堺市Ｍ女５３才）
じみかなーと思ってたけど、すごくまんぞくしました。ブラボー（住所　記載なしＴ男１４才）
ピーダスン、徳永延生氏またサイドメンの方々も実力があり、素晴らしく感激した。ピーダスンの音色が気持ち良かった。楽器は何だったか知りたいです。（右京区Ｍ男６０才）
「別のページに各人の使用した楽器を載せておきました。ピーダスンが当日使用したハーモニカは、１６穴クロマチックハーモニカでブラジル製の安い物です。演奏のうまさは楽器じゃないって。」（筆者）
世界の諸先生方の演奏を聞きまして、これ以上の満足はありません。感動すると同時に今後も世界のハーモニカの為に頑張っていただきたく思います。そして日本のハーモニカの発展をお祈りいたします。（豊中市Ｏ男６７才）



『お叱り』と『アドバイス』

あらゆる機関、機会に広めていただきたい（奈良市Ｙ女５９才）
欲を言えば、ブルースハープも吹いて欲しかった。（右京区Ｍ男６９才）
「松田幸一さん、妹尾隆一郎さん等大阪出身のブルースハープの方もおられます。次回考えます」（筆者）
ジャズにあまりなじみがないので、その良さがわからなかった。（宇治市Ｙ女７３才）
ジャズの曲が盛大で日本曲が少なかったのが残念。次はもっとオールドファンに沿った曲をお願いします。日本古来の曲。（富田林市Ｔ女７０才）
構成、演出面では少し物足らないと思いました。（大東市Ｈ男５８才）
もっと複音ハーモニカの演奏を聞きたかった。ハーモニカ本来の愁いが全くなかったのが少し残念です。（豊中市Ｓ男６９才）（箕面市Ｉ女５０才）（吹田市Ｋ男）
出来れば複音で日本の童謡などじっくりしっとり聞いてみたい。（泉大津市Ｋ男５５才）
若い人にも好まれるためには、古い歌謡曲などは少なくして、比較的新しい曲や学校等の曲（現在の音楽教科書）やポピュラーのものをやって行けば、青少年にも受け継がれて行くのでは。（大津市Ｔ男６７才）
若者が親しめる曲や編曲をされたらよいと思います。（住所記入なしＴ女６５才）
外のサイレンの音が聞こえていた。ここまで素晴らしいコンサートだったら、もっと音響のよい会場だったらよかったと思います。（奈良市Ｓ男２９才）
「かって多くのハーモニカコンサートが行われた歴史がある、という理由で、あえてご不便を覚悟でここを選びました。来年は考えます。」（筆者）
ジャズはややむずかしかった。森本恵夫、小林忠夫、吉森正隆、各氏の演奏が印象に残った。（奈良市Ａ男５０才）

以　上

95－12－7

アンケート賞品　決定！
1等賞は、守口市の吉田和夫さんへ

ハーモニカ渡来１００周年記念コンサート（１０月１５日大阪市中央公会堂）にてアンケートをお願いしましたところ、２６６人もの多くのかたからご提出がありました。（アンケート回答内容は別の記事ご参照）
１２月６日開催されました、当連盟の常任理事会にて公正に抽選の結果、次の３０名のかたがたに賞品をお送りしました。（敬称略）

１等　クロマチック・ハーモニカ
　　吉田和夫（守口市）

２等　当日のビデオテープ　５人
　　内山美智子（東灘区）、大原正雄（豊中市）、時実圭子（東灘区）
　　田中千恵子（大阪市西区）、千葉晋博（住吉区）

３等　アドラー・トリオ又は森本恵夫氏のＣＤ　５人
　　小林陽子（豊中市）、側島康子（旭区）、薄木潤子（奈良市）、
　　瀬戸口哲子（吹田市）、河野浩宣（長田区）

４等　１０ホールハーモニカ　１０人
山川佳代（宇治市）、寺田譲（三重県名張市）、児島一裕（兵庫県高砂市）
堀江久子（広島市佐伯区）、島田章三（豊中市）、貴田真理子（堺市）
細見容子（下京区）、森岡芳弘（三田市）、境祐輔（奈良市）
西村ゆき（東淀川区）

５等　ミニ・ハーモニカ　１０人
筑城敏江（東住吉区）、山中淳子（奈良市）、宮内千鶴（高槻市）
井上純一（高槻市）、上田陽子（豊中市）、福井幸枝（富田林市）
金丸寿夫（泉大津市）、徳永雄彦（灘区）、福井佐起子（豊中市）
宮川裕美子（京都市北区）

以　上

95－11－17

95／10／15のハーモニカコンサートで

演奏者が使用した楽器

吉村　則次

当日の聴衆のかたからアンケートにより、使用した楽器に関しご質問がありました。同じ疑問を持っておられるかたも多いと思いますので、誌上でお知らせします。

1、小林　忠夫
　　21穴複音ハーモニカ　Aマイナーとペンタトニックハーモニカ等
　　16穴クロマチックハーモニカ、スーパー64

2、吉森　正隆
　　21穴複音ハーモニカ及び22穴複音ハーモニカ
　　それぞれG#マイナーとBメージャーのキーのもの

3、京都ハーモニカカルテット
　　リード奏者1（和谷篤）12穴クロマチックハーモニカ
　　トゥーツ・シールマン・ハードボッパーモデル
　　複音グリッサンドハーモニカ
　　リード奏者2（新井）16穴クロマチックハーモニカ、スーパー64X
　　コード奏者　（北尾）48コードハーモニカ
　　バス奏者　　（田中）バスハーモニカ

4、和谷泰扶
　　12穴クロマチックハーモニカ、シルバーコンチェルト

5、徳永　延生
　　16穴クロマチックハーモニカ、スーパー64　ゴールド
　　伴奏　恒川富雄　48コードハーモニカ　辻　晋哉　バスハーモニカ

6、ピート・ピーダスン
　　16穴クロマチックハーモニカ、ヘリングデラックス

使われたハーモニカの種類とその価格（カタログ価格）

21穴、22穴複音ハーモニカ　3000円から9000円まで各種あり
　　ペンタトニックは1000円アップ
　　メーカーは、日本ではトンボ、スズキの2社

12穴クロマチックハーモニカ　14000円
　　和谷篤樹氏が使ったトゥーツシールマンモデルは22000円
　　和谷泰扶氏が使ったものはシルバーコンチェルト70万円(注文生産)

16穴クロマチックハーモニカ
　　ホーナーの280は20000円

16穴クロマチックハーモニカ、スーパー64
　　銀メッキのもの25000円、ゴールドメッキのものは35000円
　　スーパー64Xは、45000円

48コード　　135,000円
バスハーモニカ　　135,000円

以上クロマチック及び合奏用ハーモニカは主にホーナー社（ドイツ）製、大手楽器店で売っています。10／15コンサートのプログラムに広告を掲載している店にお問い合わせください。

クロマチックハーモニカは、ホーナー社以外では、ときにヘリング社（ブラジル）、ファン（中国）、スズキのレグホンというもの（日本）が使われることもある。

ピートピーダスンは、当日はヘリング社のものを使っていた（日本では売られてないので、価格も不明）。また他の場所ではホーナー280を使っていた。

以　上

ビデオ(Video) ハーモニカ渡来１００周年記念、関西ハーモニカコンサート
１０／１５／９５　大阪市中央公会堂
Kansai Harmonica Concert celebrating 100th year of Harmonica into Japan
October 15, 1995 at Osaka City Central Hall

1、小林　忠夫(Tadao Kobayashi) (Piano;Kanami Kinoshita)
①日本民謡、黒田節（複音） Japanese folk tune. Kurodabushi
②天国と地獄（ピアノ伴奏　木下　加奈美）
Orpheus in the Underworld by Offenbach

2、吉森　正隆 (Masataka Yoshimori)
①ロシヤ民謡、故郷への憧憬　Russian Melody, Hometown
②龍的傳人（候　徳建　作曲） Chinese Song, Dragon Successor

3、京都ハーモニカカルテット (Kyoto Harmonica Quartet)
テーマ曲　ギャロッピング・コメディアンズ　Gallopping Comedians
①バルセンティーノ（トミー・ライリー作曲） Valsentino by Tommy Reilly
②タイガー・ラグ Tiger Rug
③歌劇「ｻﾑｿﾝとﾃﾞﾘﾗ」より『バッカナール』（サン・サーンス作曲）
Bacchanale from Saint Saens' Samson and Delilah

4、和谷　泰扶、和谷　麻里子(Ｐ)
(Yasuo Watani with Mariko;piano)
①ｲﾝﾀｰﾒｯﾂｵ･ｼﾞｵｺｰｿ　Intermezzo Giocoso by Rudolf Wurtner
②ホラ・スタッカート　Hora Staccato by Denicu
③「トレド」スペイン幻想曲　Spanish Fantasy, Toledo by James Moody

5、徳永　延生　　伴奏　恒川富雄(ｺｰﾄﾞ)、辻晋哉(ﾊﾞｽ)
Nobuo Tokunaga;Lead, Tomio Tsunekawa;Chord, Shinya Tsuji;Bass
①セレソローサ (Cerezo Rosa or Cherry Pink and Apple Tree)
②鈴懸けの径 (Suzukakeno Michi)
③Bumble Boogie

6、ピート・ピーダスン Pete Pedersen
伴奏 高岡正人(ﾋﾟｱﾉ)、上山崎初美(ﾍﾞｰｽ)、中島俊夫(ﾄﾞﾗﾑｽ)
Takaoka;Piano, Kamiyamazaki;Base, Nakajima;Drums
①Ghost Riders In The Sky
②Misty
③South Rampart Street Parade

7、徳永延生とピート・ピーダスン Nobuo Tokunaga and Pete Pedersen
①Take the A Train
②Blue Bossa
Encore: Autumn Leaves

8、全員合奏 (Entire Company, Including Audience Also)
①Swanee River (in C)
②聖者が町にやってくる (When the Saint Go Marchin' In) (in F)

価格　５０００円　送料込み　Price 5000 yen or US$50.00 incl. P&H
５９１堺市東浅香山町３丁１０４番地　５棟２０１号
吉村　則次（関西ハーモニカ連盟）電話及びＦＡＸ　0722 51-9398
Order from;
Noritsugu Yoshimura (Kansai Harmonica Federation)
#5-201, 104 Higashiasakayamacho 3-Cho
Sakai-shi, Osaka 591 JAPAN　Tel. 0722 51-9398

最高の盛り上がり
を見せた
ジャム・セッション

左：ＦＩＨ会長クツリ氏
右：ミラー氏
中之島公会堂前にて

ピート・ピーダスン氏
を囲んでくつろぐ
和谷泰扶氏等

演奏中のピート
ピーダスン氏

京都ハーモニカ　クァルテット

演奏中の和谷泰扶氏

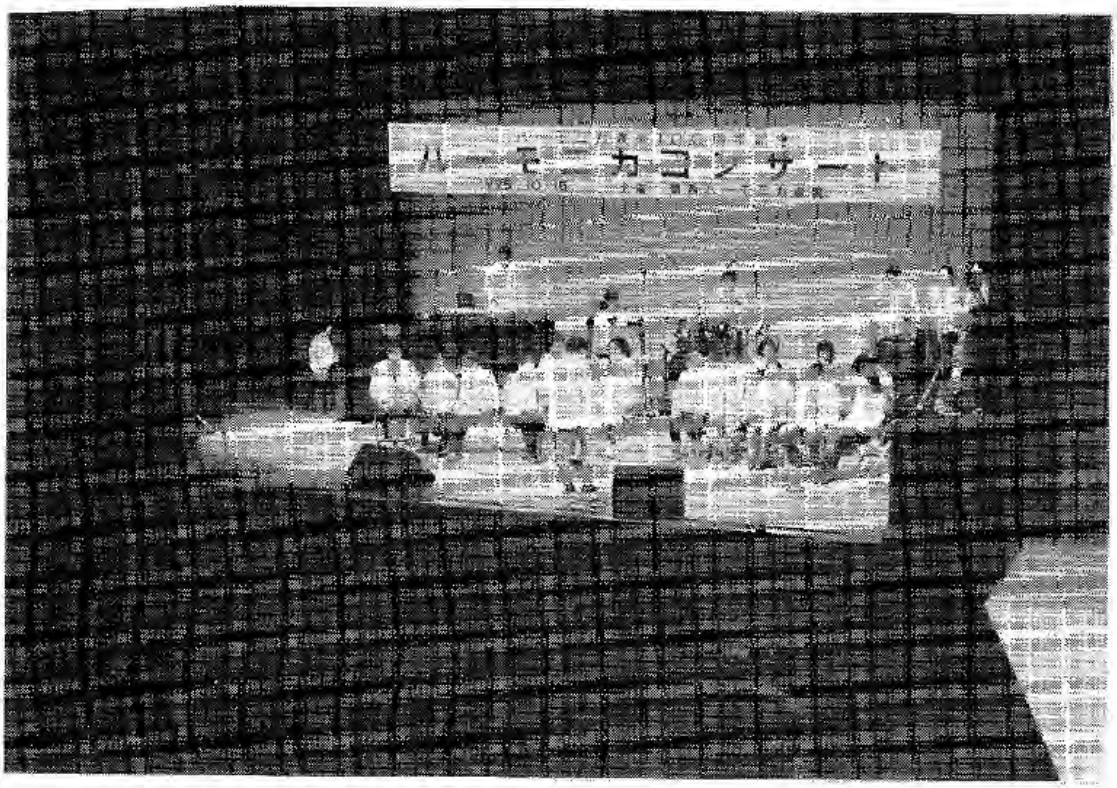
小林　忠夫氏

吉森　正隆氏

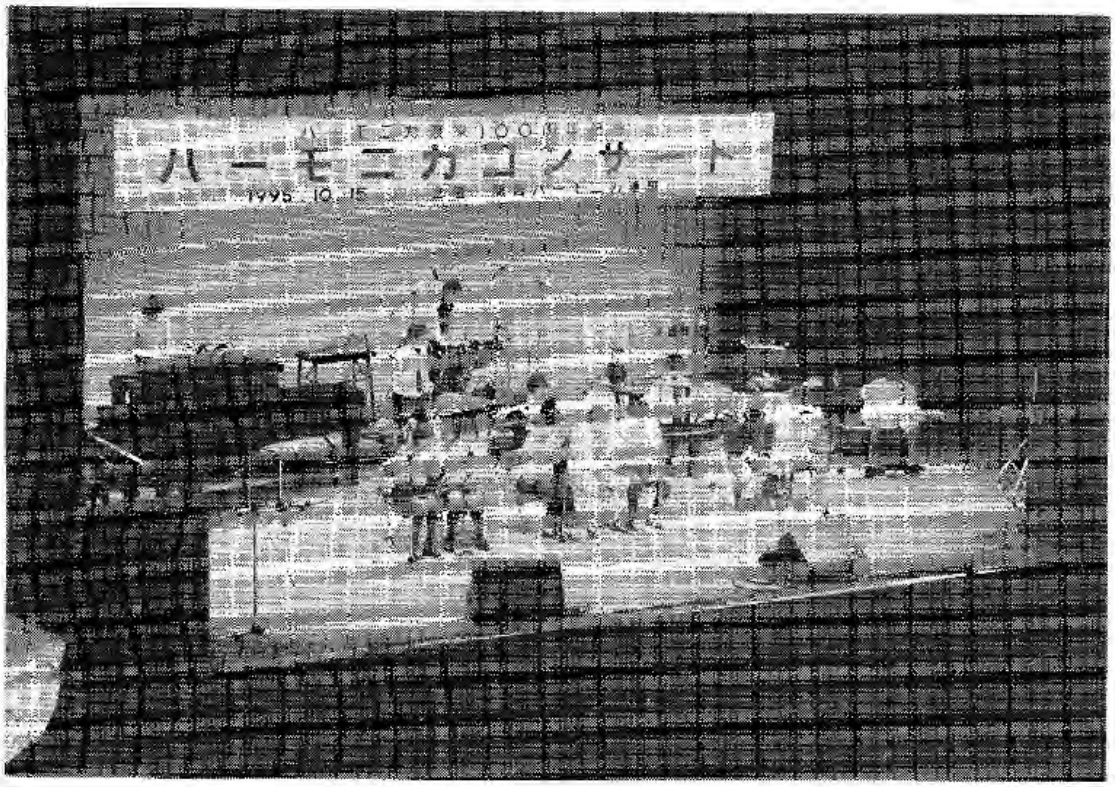
徳永　延生氏

森本　恵夫氏

ハモソ　IN　KANSAI



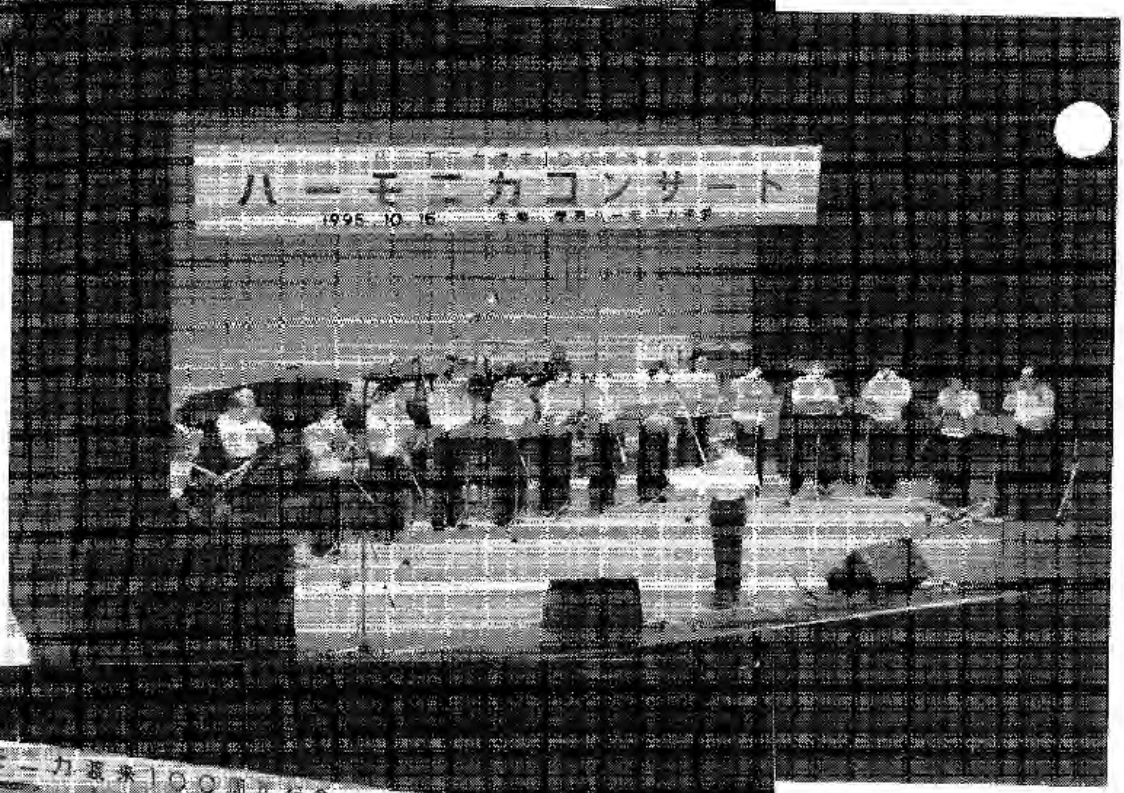
熱演中の関西学院大学　及び　同志社大学　ハーモニカ　ソサイエティ　の皆さん
大変好評でした



９５年１０月１５日のハーモニカ渡来１００周年記念コンサートの翌１６日、コンサートで演奏したピート・ピーダスン氏及び和谷泰扶氏は、大阪市庁舎に招かれ、西尾正也大阪市長（当日は阪口英一助役が代理）から感謝の言葉と記念品が贈られました。

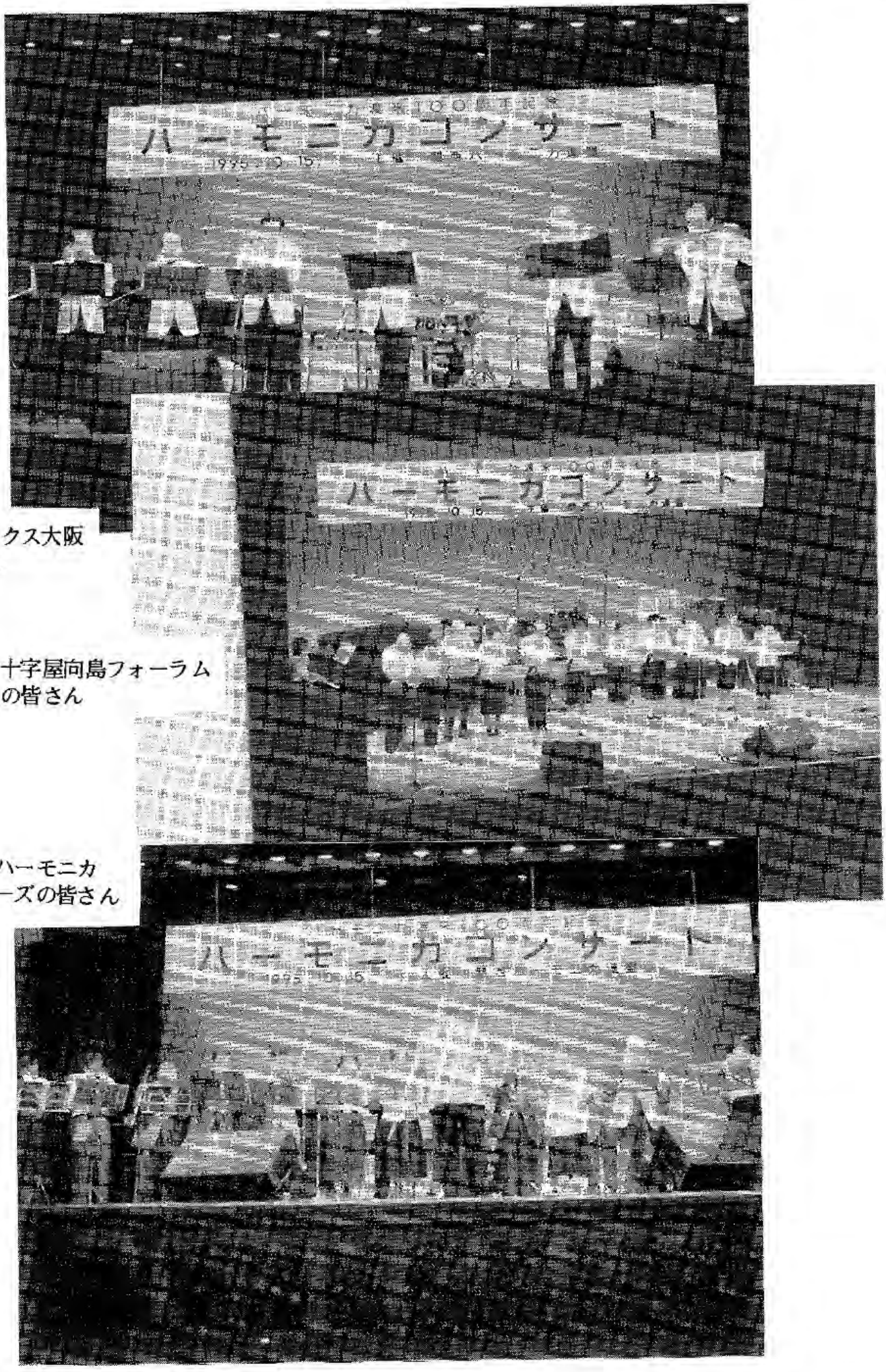
アンサンブルの競演

宇治ハーモニカ
アンサンブルの
皆さん



奈良ハーモニカ
同好会の皆さん

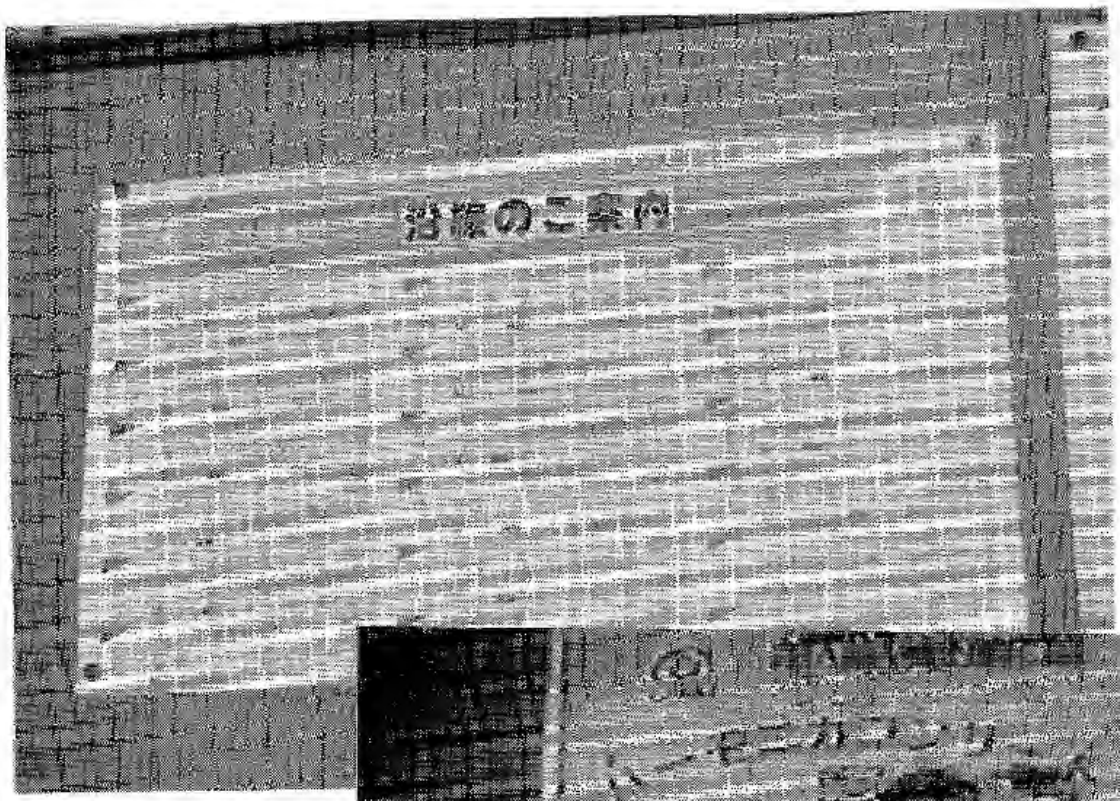
ハーモニカ倶楽部
鳳凰の皆さん



ハーモニクス大阪
の皆さん

十字屋向島フォーラム
の皆さん

尼崎ハーモニカ
エコーズの皆さん



地下鉄、バスの
「沿線のご案内」
に掲載され多数の
問い合わせがあった

京都の洛西一帯に
ＣＡＴＶで放映さ
れた（吉見　忠氏）

95－12－7現在

ハーモニカコンサート情報

開催日順

ほかにご存じでしたら有料無料にかかわりなくどしどし編集局にお寄せください。

コンサートの名前、内容、演奏者、日時、主催者、開催場所、最寄り駅、入場料、問合先等

千里アサコム・コンサート

魅惑のスクリーンミュージック－－－ハーモニカポップスコンサート
ハーモニカ　徳永延生　伴奏　ピアノ　堂迫康雄　ベース　須崎健二
96年1月20日土曜日　午後6時30分
千里朝日阪急ビル1階　北大阪急行（地下鉄御堂筋線）千里中央　南側すぐ
入場料　無料　06　873－2600千里朝日阪急ビル

友の会コンサート

主催　関西ハーモニカポップス友の会
96年2月22日木曜日　午後6時
大阪府立文化情報センター　中之島住友ビル5階　地下鉄四つ橋線　肥後橋
問い合わせ先　吉森正隆　0725　43－8720
参加費用を払って演奏もできます。申し込みは、上の問い合わせ先へ

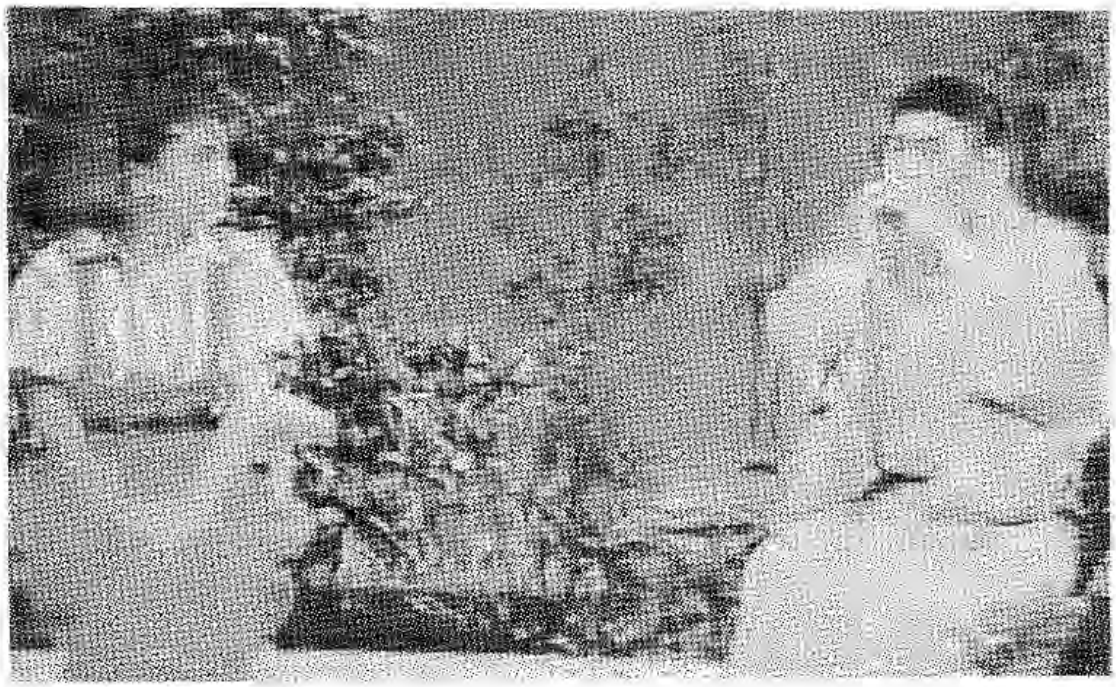
吉森正隆リサイタル

96年3月7日木曜日　午後6時
大阪府立文化情報センター　中之島住友ビル5階　地下鉄四つ橋線　肥後橋
問い合わせ先　吉森正隆　0725　43－8720
詳細　未定

アンデパンダン・ハーモニカ演奏会

主催　日本ハーモニカ芸術協会　関西支部連合会
96年6月16日日曜日
場所等詳細未定
問い合わせ先　06　624－5606　仲村（同連合会副会長）

去る８月１２日　関西テレビ　「枝雀寄席」　で
桂　南光さんにハーモニカの説明をする　新井　尚子さん



入会されました

大阪狭山市	浮田　一二三	氏
枚方市	高谷　種明	氏
宝塚市	三原　利夫	氏
堺市	浅尾　彰人	氏
大阪市	出村　佳津男	氏
宇治市	山川　佳代	氏
大阪市	太田　笹弘	氏
阪南市	片桐　渡	氏
大阪市	平田　弘	氏

お悔やみ申しあげます

藤本　初之助　氏

編集後記

上野さんの後をついで約２年たちました。そのあいだ一生懸命会報の発行を行ったつもりではありますが、これまでに発行した物をみるとまだまだ力不足の感があります。難しいものです。不本意なまま、吉村　則次さんに来年から編集局長をお願いすることとなりました。

しかし、本号が世界ハーモニカ・フェスティバル’９５　ＩＮ　ＫＡＮＳＡＩの特集号であったことは自分にとっても非常な喜びです。本当に会員の諸先輩方のご指導のお陰と感謝の念でいっぱいです。有り難うございました。

尚、大阪市中央公会堂で開催されたフェスチバルでは、大阪市　阿倍野区選出の市会議員　菅井　敏男氏のひとかたならぬご指導、ご協力を賜りました。この場を借りて深く感謝する次第であります。

関西ハーモニカ連盟
平成７年１２月１６日発行
第１２５、１２６合併号
発行責任者　理事長　　仲村　眞
〒５４５　大阪市阿倍野区三明町２－６－１０
発行者　事務局長　新井善久
〒６００　京都市下京区花屋町通西洞院東入る５６３
編集局　　後藤貞男
〒５９６　岸和田市春木旭町３６－１７